

事業報告書（令和 6 年度）

事業名 SDGs に取り組む ESD による地域教育力育成事業

団体名 岡山市京山地区 ESD・SDGs 推進協議会 担当者名 柏崎 希

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

【春の環境てんけん 2024】

第 1 部「身近な環境をてんけんしよう！」

- 日時 2024 年 6 月 1 日（土）9:30～12:30
- 場所 観音寺用水、岡山県総合グラウンド、京山公民館美術工芸室
- 参加対象者 小学生から大人まで
- 参加人数 52 人（学生ボランティア 13 人を含む）
- 講師 岡山淡水魚研究会、岡山理科大学、岡山理科大学附属高校
- 内容 例年は座主川での観察・調査も行っているが、増水のため中止とし、参加者全員で総合グラウンドにおいて植物と大気、騒音の調査を行い植物について解説を聞いた。その後観音寺用水「緑と水の道」で水辺の生き物と水質の調査を実施し、採取した生き物について講師から解説をいただいた。また 3 月に幼虫を放流したゲンジボタルが成虫になり 5 月に飛んでいたことから、ホタルについてもお話を聞いた。また用水路内及び周辺部のごみの調査と回収、用水路内の保全も行った。その後公民館に戻り、活動の感想を用紙に記入し調査結果を共有した。【活動の様子 ↓】



第2部「マイクロプラスチックを観察しよう！」

- 日時 2024年6月1日(土) 14:00~16:00
- 場所 京山公民館美術工芸室
- 参加者対象者 小学5年生以上
- 参加人数 6人
- 講師 みずしま財団

【秋の環境てんけん 2024】 → 悪天候のため中止。講師2名とスタッフで用水路等の調査、展示用生き物採取を行った。

【第20回 京山地区 ESD・SDGs フェスティバル】

- 日時 2025年1月25日(土)~26日(日)、月間行事として前後一か月程度
- 場所 京山公民館
- 参加対象者 子どもから大人まで
- 参加延べ人数 1,059人(学生ボランティア含む)
- テーマ「京山からみんなと創ろう! SDGs でつながる未来」

★活動発表★

伊島認定こども園(VTR)、伊島小学校(VTR)、津島小学校(VTR)、京山中学校(VTR+2名)、岡山工業高校(VTR+2名)、烏城高校、明誠学院高校

・各学校の発表に対し会場からコメントをいただいた。(教育長、市議会議員、連合町内会長、京山地区 ESD・SDGs 推進協議会委員等)

★京山 ESD・SDGs 対話★

・テーマ 「みんなで創ろう! 『京山えほんわーど』」

【導入劇】『文学ってなーに?』 (劇団公民館☆京山の仲間たち)

【提言】『京山絵本わーど』 (連塾、アソビ・スクエア理事長 松畑熙一)

【創作対話】『その後のハチドリ』…「ハチドリのひとしずく」の続きの創作。

★京山地域にホタルを飛ばそう~京山ホタルトーク Part2★

・京山地域の身近な自然についてのお話(岡山の自然を守る会 友延栄一さん)

・観音寺用水「緑と水の道」について(池田満之さん)

・ホタルの生態と飼育について(岡山理科大学 中村圭司さん・学生さん)

お話を聞いた後、参加者で意見交換をした。

★地域の絆プロジェクト★

・自転車マナーの取り組みをどう進めるかの話し合い

・10年の節目を経て、岡山発のさらなる活動の広がりを視野に入れ、原点に帰る自転車の

危険運転について考えるワークショップを実施

★その他★

- ・ こけ玉作り（藤クリーン株式会社）
- ・ 新聞紙で鉛筆創り＆牛乳パックでマジックカメラ作り（ぱるボランティア）
- ・ みんなのカフェ（チューリップの会）
- ・ ガムラン演奏と楽器のワークショップ（フレンドリー京山）
- ・ もの作り教室（岡山工業高校）
- ・ 伝統文化と昔遊び（愛育委員会）
- ・ 食器のリユース
- ・ 地域の絆ワークショップ（テーマ：交通安全）
- ・ 演劇「文学ってなーに？」（劇団公民館☆京山）
- ・ つしまみんな食堂
- ・ 物品販売（フェアトレードネパール雑貨…ダフェプロジェクト、番田イモのどら焼き…岡山商科大学、ベジファーストあったかふるふるスープ…（株）テンダーハーツ）

★月間行事★

- ・ 活動発表上映会
- ・ 「京山カムカムトーク」～SDGs 交流会～

「レジリエンス」をテーマに、学校や企業、市民団体等様々な分野の SDGs 活動について学び、参加者間で交流・意見交換を行った。

◎司会：岩淵泰さん（岡山大学研究・イノベーション共創機構准教授）

◎ゲスト：濱崎絵梨さん（ノートルダム清心女子大学准教授）

安原宗一郎さん（岡山商工会議所副会頭、大紀産業株式会社代表取締役社長）

◎話題提供団体：岡山大学被災地支援団体おかやまバトン

中国銀行

東山つながりキッチン

- ・ SDGs 映画上映会

岡山県内の空襲体験者の記憶や、平和を願って活動している個人や団体、高校生たちの思いを紹介したドキュメンタリー映画「未来へのバトン」を鑑賞し、参加者が意見交換する。

【活動の様子】





2. ESD の視点
① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか
環境てんけんや ESD・SDGs フェスティバルを通して、京山地区に愛着と誇りをもって、京山地区のことを自分事として考えられる人が増えてきていることが、事業時に行ったアンケート（ふりかえり）の記述から読み取れる。
② どのように学び合いを取り入れたか
ESD・SDGs フェスティバルの場を活かして、「京山 ESD・SDGs 対話」「京山地域にホテルを飛ばそう～京山ホテルトーク Part 2」「地域の絆ワークショップ」「京山カムカムトーク～SDGs 交流会～」など、対話、交流型の学び合いの場をつくることで、多様な学び合いができるようにした。
② どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか
学びの場を、「説明・納得型」ではなく、「発問・対話型」が主となるようにすることで、学びから探究、主体的な実践行動へと変容していけるように工夫した。例えば、「地域の絆ワークショップ」では日常生活の中で問題だと感じている自転車マナー問題を取り上げるなど、話し合い、学び合うテーマをより身近に問題意識をもっているものにすることで、自分事として捉えられ、学びから実践を主体的に取り組めるように工夫した。
3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）
京山地区は、高校と大学がそれぞれ 3 校あるため、毎回、多くの新しい若者を育成できているという点では大きな成果があると言える。近年、高校も大学も地域のボランティア活動への参加を強めているだけに、高校や大学との連携の仕組みができているのは当地区の大きな強みである。スタッフとして企画からボランティア参加した学生達のふりかえり（感想）などを見ると、企画から主体的に関われたことが、本人の意識と行動を大きく変容させていることがわかる。参加者をいかに「お客さん」にしないか、「主体的な参加者」にできるかで、成果は大きく異なることを強く感じた。
4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）
本事業では、高校生と大学生の関わりが多い京山地区の強みが活かされており、ここでの成果は京山地区のみならず、岡山地域に広く波及効果も出している。今後も、岡山地域の牽引役として ESD に取り組み、持続可能な社会づくりを推進していきたい。特に京山地区は、岡山市内でも ESD に地域総動型で取り組んできて、その中で SDGs の達成に向けても地域ぐるみの推進を意識的に進めてきた。2030 年の SDGs 目標達成年が近づく中で、岡山でも 2030 年以降を視野に入れた取組へと進化発展していくことが望まれるだけに、京山地区の数々のチャレンジは、2030 年以降を視野に入れた岡山地域の持続可能な社会づくり、ウェルビーイングの向上を後押しするインセンティブになると確信している。